心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

NHKラジオ、全国たべものうまいもの、秋田が2回登場

日曜日の朝5時半過ぎ、NHKラジオ第一に登場するのは、農畜産物・流通コンサルタントの「やまけんさん」。山本謙治さんが全国・世界の農畜産物を毎週、紹介しています。2022年7月は、秋田の農産物が2回も取り上げられました。7月3日は秋田市仁井田の「秋田蕗」。生育途中とは言え高さ1mの蕗に東京のスタジオの二人はびっくり。「やまけんさん」は必ず自ら調理し、スタジオとオンラインで結んで食べます。下準備は20分茹でて冷水に浸して粗熱を取ることから。表面の皮の部分、繊維を剥いて水に半日晒しアクを抜く。長さ5cm位、大振りに刻んで、きんぴら風の炒り煮を浅めに。油に唐辛子、出汁、みりん、醤油で味付け。ラジオからサクサク、しゃくしゃくと小気味よい咀嚼音。しかし、繊維や筋は一切残っておらず歯が通る。甘辛でおいしい。「秋田蕗」の入手方法を聞かれた「やまけんさん」は、郷土野菜、伝統野菜なので、秋田のアンテナショップか郷土野菜を扱う店を訪ねる方法もあるが『この時期に秋田に足を運ぶことではないか』と結びました。

7月24日は、「みず(うわばみそう)のたたき」を紹介しました。秋田に出張した帰り、秋田駅1階の産直でパック詰め冷蔵の「みず」を見つけたそうです。保冷剤を入れて大事に埼玉の自宅に持ち帰り、「たたき」の作り方をラジオで紹介されました。生の「赤ミズ」の葉を取って熱湯に通すと茎の色が鮮やかな緑に。水に浸して粗熱を取り、ポリ袋に入れ、スリコギでバツン！バツン！と叩きます。まな板に載せ更に包丁で叩くとトロ―ッとした粘りが出て、やがてトロントロンになります。丁度、モロヘイヤかオクラの様に糸を引きます。味噌を入れて、まだ叩きます。山椒の葉を入れて4回叩くまで調理は難しくありませんが、時間がかかります。「やまけんさん」は五城目町から取り寄せた冷蔵「みずのたたき」を椀に入れ、マイクの前で口にすすり込みました。「ズルズル」という音に繊維が僅かに残る「シャクシャク」という音も混じります。「みず」が育つ清流の爽やかな香り！と表現しました。「熱いごはんの上に、またはお酒のあてにも」と勧められました。5月から9月までと秋田の野菜の中では長い旬です。







みちのく秋田　赤い靴の女の子　先行上映終わる



みちのく秋田に実在した赤い靴の女の子。セミドキュメンタリー映画は、2022年10月24日秋田市で、同月25日ロケ地の横手市で、11月22日と12月1日は東京で先行公開されました。全国での公開は、まだ決まっていません。

秋田市出身の脚本家、内館牧子さんが映画に文章を寄せています。「映画を見る前に、ぜひ秋田市立中央図書館前庭に立ち寄って欲しい。そこにある『秋田の赤い靴』像は、女の子ハツと、ハツを米国に連れていって育てたハリソンの、それは美しく気品のある母子像だ。秋田公立美大の皆川嘉博さんの作品である。ハツが通った明徳小学校跡地に立つ像は、人間が人間を愛するのに、国籍も人種も年齢もないと思わせる。愛するとはこういうことなのだと、像と映画は史実をもとにして伝えている。」





新体操・高橋亜季さん、東奔西走中

新体操の高橋亜季さんが、福岡市中央区六本松、大野城市を本拠地に秋田、首都圏、東海、近畿と全国を飛び回っています。

昨年8月に秋田市で初めての里帰り体験教室を開催し、「やさしい新体操」「すべての家庭に1本のリボンを」と駆け回っています。

昨年は東京・港区に事務所と教室を構えました。首都圏秋田県人会連合会への働きかけを続ける一方、秋田県庁経由で、静岡県の熱海秋田県人会の会長にもご協力を頂き、「新体操体験会in三島」を開催しました。近畿秋田県人会にも会員子弟などへの協力を依頼しています。12月13日には、福岡を訪れた秋田県の猿田和三・副知事にも面談し、「やさしい新体操」普及への協力をお願いしました。

2023年は、鹿児島へ向かいます。2月11日に奄美大島健康事業フェスティバル、2月19日、3月19日は神奈川県川崎市幸区の鹿島田幼稚園で新体操体験会、4月1日太宰府市とびうめアリーナで第3回発表会と日程が目白押しです。

元北京五輪・強化指定選手、2007年秋田国体・総合優勝など輝かしい成績を残している高橋さんへの応援を、お願いします。



ハワイ島、大坪洋子さんご夫妻の近況



2022年10月、ハワイ島コナのホテルで大坪洋子さん・宏隆さん、ご夫妻に会いました。宏隆さんは、福岡県みやま市高田町のご出身、現在はハワイ島コナで大坪コーヒー園を営んでいます。コーヒーのパッケージに宏隆さんのイラスト漫画が描かれています。

宏隆さんは、2022年11月から2023年4月まで洋子さんの実家がある秋田県大仙市にお一人で里帰り中です。洋子さんによると、初めて過ごす雪国秋田での暮らしに少しワクワク。私が子供時代に過ごした情景を実感しているようですと近況。洋子さんも2月から大仙市へ里帰り。運転免許証の書き換えです。

ところで、世界最大の活火山・ハワイ島マウナロアが噴火活動中で、USGS米国地質調査所のサイトを添付して来ました。噴火見物の観光客の車で渋滞しているものの、これまで住民や住宅に大きな被害はないと言うことです。2022年11月30日早朝、上空から撮影。溶岩流が三つに分かれています。左側の溶岩噴水は高さ65フィート～82フィート(20m～25m)、時速0.08マイル(時速128m)で北東に動いています。



ハワイ島マウナロア

猿田和三・副知事、再び福岡へ

12月11日～13日、秋田県の猿田和三・副知事が3月に続いて福岡市を訪ねました。主な目的は、秋田のコメの新品種「サキホコレ」のPRです。12日、福岡市の放送局でナマハゲと共にPR録画を撮影し、放送局の幹部を表敬訪問、新聞社2社を訪ねました。



夕方は、福岡・秋田県人会の役員や少数の会員と小規模の懇親会に出席し、翌13日、みちのく夢プラザを中心に新天町商店街でナマハゲと「サキホコレ」のPRや記念品をプレゼントしました。プレゼントは100名分を用意しましたが、僅か5分でなくなりました。また、みちのく夢プラザでは、「サキホコレ」を計240キロ用意しましたが、1週間で完売になりました。

ところでナマハゲには、昨年6月に入会した鹿角市出身の福岡・秋田県人会、最年少、村木千隼さん(27歳)が真ん中のナマハゲを務めました。平日6時間もの任務でしたが、職場の上司も姿を見せ、「中身を知っているとはいえ、ナマハゲの恰好をしていると迫力が違って怖かった。写真撮影に沢山の人が集まっていて驚いた」と仰っていたと言う事です。



なまはげでPR(新天町商店街)

佐賀感謝報恩の旅

戦没佐賀藩士慰霊秋田委員会は、昨年8月と11月の2回、佐賀県を訪ねました。秋田市新屋にある葉隠墓苑には、54名の佐賀藩士が眠っています。戊辰戦争で奥羽羽越列藩同盟を離脱した秋田藩は周囲から攻め込まれ、海路、佐賀藩士が近代兵器と共に救援に駆け付け、多くの命を落としました。以来、秋田と佐賀の交流が続いています。8月は佐賀市で交流会、11月は1行4名が、佐賀空港で佐賀秋田県人会の出迎えを受け、2泊3日の行程で佐賀藩士の慰霊祭などに臨みました。







武雄市に秋田から竿燈

佐賀県武雄市で11月12日、秋田竿燈まつりが披露されました。西九州新幹線の部分開業を記念して武雄市が2018年以来4年ぶりに招きました。武雄温泉駅の周辺に約10万人の観衆が集まりました。

武雄温泉入り口を夕方にスタートし、市役所近くや武雄温泉駅など8か所で演技を披露しました。会場には佐賀秋田県人会や福岡秋田県人会の会員も詰めかけ、「ドッコイショー、ドッコイショー」と掛け声をかけました。今回は、8本の竿燈と差し手など100人も秋田から武雄を訪れました。武雄市と秋田市の交流は戊辰の役で秋田藩の援軍として佐賀藩の兵士らが駆け付けたことが縁で続けられています。



シンジー81歳、8回目のコンサート

福岡・秋田県人会会員のシンジー（麻生進さん）が10月8日、81歳にして8回目のコンサートを開催しました。場所は福岡市東区箱崎の筥崎宮に近い「箱崎水族館喫茶室」。昭和初期まで近くにあった水族館にちなんだ喫茶室です。

午後2時に始まったコンサートは広いフロアの椅子席30席が満杯。シンジーの人気は衰えません。シンジーは、東海林太郎を心の師と仰いでいて、秋田市の旧県民会館そばにあった胸像前で初めて披露した「ケヤキ・明日なろ・旭川」や土崎港の東海林太郎・菩提寺、西船寺の墓前で歌った「母に捧げる歌」など20曲以上を元気に歌いました。9月、自宅近くで交通事故に遭い、9日間も安静にしたという事でしたが、そうしたことを感じさせない声でした。





加藤礼識(ひろさと)さん、母校の式典で講演



福岡・秋田県人会、会員で別府大学食物栄養科学部、専任講師・医学博士の加藤礼識(ひろさと)さんが11月3日、母校の西目高校創立80周年記念式典で「劣等感をエネルギーにして」という演題で記念講演をしました。

加藤さんは高校卒業後、首都圏で看護士として働いていましたが、32歳で大学に入ったという経歴をお持ちです。2019年から別府大学で教育研究の仕事をされています。講演では、高校在学中から看護士時代、そして研究者になるまでの道のりを面白おかしく講演されました。西目高校は1942年秋田県立西目農業高校として創立され、1988年に現在の校名になっています。

帆が伸縮、回転する東北電力の石炭輸送船が長崎で完成



写真は、商船三井と大島造船所(長崎県西海市)が2022年10月7日に共同開発した石炭輸送船「松風丸」10万422トン。伸縮可能な繊維強化プラスチック製の帆を船の先端部分に取り付けています。風向きと風速に応じて帆が伸縮、回転する世界初の技術を取り入れています。

帆の幅は約15mで、高さはセンサーが風力を計測して約23m～53mに自動的に伸縮します。この船は東北電力の専用船として運航されますが、これまでの船に比べオーストラリア－日本で5％、北米西海岸―日本では8％程度の温室効果ガスが削減されます。「松風丸」は船籍港が秋田県能代港で地元の「風の松原」にちなみ、命名されました。

ばんば三郎さん、横断幕と肉声を残す

福岡・秋田県人会の横断幕を描いて頂いた漫画家のばんば三郎(本名馬場三郎)さんが2021年9月25日、亡くなりました。享年96歳でした。「九州沖縄、秋田県人会だより」の題字にも「心をひとつに」と使っています。

東日本大震災の復興支援に感謝を込めて福岡・秋田県人会は博多どんたくパレードに参加してました。以来、コロナの時期を除いて毎年、4回の県人会例会、2回のキリタンポ鍋チャリティなどに活用しています。馬場さんは、2016年頃までバスに乗って、どんたくパレードの横断幕を見に来ていました。



横断幕を描く馬場さん(2011年5月2日)



2022年5月4日、博多どんたくパレード

その馬場さんは、東京・国立市の出版社「今人舎（いまじんしゃ）」が企画した「私の八月十五日」という出版・音声記録に自筆の漫画と肉声を残しました。肉声は、俳優の高倉健さんや同じく漫画家の水木しげるさんと共に全国の約180人を収録しました。肉声を聞くための「音筆（おんぴつ）」という再生機は、絵本とともに全国の約100か所の図書館などに寄贈されているほか各地で開催されているパネル展などで活用されています。

「音筆」には、右下の終戦後の「戦死」を読む馬場さんの肉声が収録されています。



教室展と個展、芹沢幸子さん

福岡・秋田県人会、会員で「アトリエ幸子・絵画教室」を主宰する画家の芹沢幸子さんが、7月12日（火）～17日（日）福岡市中央区大名2－4－32の山本文房堂で第11回「七月の風展」を開催しました。

また、9月28日～10月4日、北九州市の小倉井筒屋デパートで20回目の個展も開催しました。こちらは足掛け30年続く、個展です。





ライン河の岸辺、クルーズ船のデッキから眺め続けた風景

九州沖縄、秋田県人会の活動予定と新入会員

佐賀、熊本、沖縄、福岡ともに、対面でのイベント予定はありません。各地でコロナ感染が再び増加に向かう中で、新年会や例会など、多くの方が飲食を伴う対面での会合を開催しにくい状況が続いています。こうした中でも新しい会員も増えていますので、ご紹介します。

○ 12月12日、みちのく夢プラザの秋田フェアの中で丸野悟史（まるのさとし）さん、にかほ市出身、34歳の弁護士、2022年9月から福岡市に住んでいます。「仁賀保中学校、本荘高校出身です。よろしくお願い致します。」

○ 13日、須田健太郎（すだけんたろう）さん、秋田市出身、35歳、FBSのアナウンサー、2016年から福岡市に住んでいます。「なまはげのキーホルダーをいつも身につけています。秋田大好きです！よろしくお願いします。」と2人の新会員が入りました。

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jpへどうぞ

